

長岡京市議会議員

変える姿勢で、変わる市政へ



編集責任者:

こたに宗太郎

発行：変える姿勢・変わる市政の会

〒617-0853 長岡京市奥海印寺森ノ下26番地

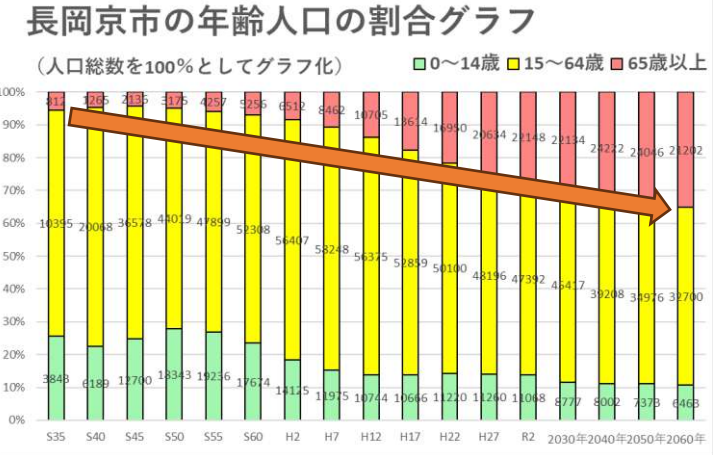
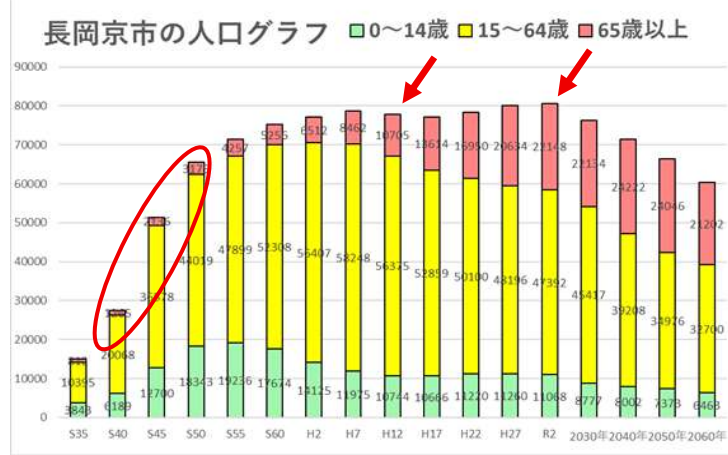
TEL:(075)951-1776 E-MAIL:kotani@mbox.kyoto-inet.or.jp

FAX:(075)951-8681 URL:http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kotani/index.html



※広げてお読みください。昨年からはじまった人口減少！！長岡京市の人口状況について

年齢構成の推移	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	2030年	2040年	2050年	2060年
長岡京市の人口	15050	27522	51414	65557	71392	75238	77044	78685	77824	77139	78270	80090	80608	76326	71453	66426	60406
0～14歳	3843	6189	12700	18343	19236	17674	14125	11975	10744	10666	11220	11260	11068	8777	8002	7373	6463
15～64歳	10395	20068	36578	44019	47899	52308	56407	58248	56375	52859	50100	48196	47392	45417	39208	34976	32700
65歳以上	812	1265	2136	3175	4257	5256	6512	8462	10705	13614	16950	20634	22148	22134	24222	24046	21202



上表は、長岡京市の人口と年齢構成の推移を示しています。(グラフの値は、5年ごとに実施される国勢調査の数値。2030年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠)。「長岡京市の人口グラフ」の赤矢印、平成12年と令和2年を比較すると、65歳以上の人口が2倍以上増加しています。65歳以上の人口と死亡者数には、強い相関関係があるため、死亡者数も同様に約2倍に増加しています。また、赤い丸で囲った部分を見ると、昭和40年から昭和50年に人口が急増していることが分かります。この時期に長岡京市に移り住んできた、当時の子育て世代約2万5000人が、現在後期高齢者となりつつあります。そのため、これからの15年間で人口構成の大きな入れ替わりが進むことが確実です。現時点において、新たな人口流入が期待される市内の大型開発は、4中横(49戸)、長法寺小横(130戸)、勝竜寺公園横(470戸)です。これらの住宅開発によって、今後3～5年で新規住民が1300人程度(年300人程度)は増える見込みです。また、令和6年度の出生数が592人、死亡者数が861人なので、当面の間は人口の増減が相殺しあい、総人口が横ばいになりますが、これらの開発が収束する5年後あたりから人口減少が起こってきます。(昨年からは長岡京市でも人口減少が始まっています。※人口移動の少ない2月での計測) 生産年齢人口が減ると、これまでの借金が一層重くのしかかり、将来的には現在実施している施策すらできなくなるおそれがあります。何もしなければ、人口減少のスピードがさらに加速していきます。今後の展開を考えると、全国一律で実施される給食の無料化だけでは十分とはいえません。本気で子育て世代の増加を目指すのであれば、さらに一歩踏み込んだ子育て支援の充実が不可欠だと当会は判断しています。その具体策として、厚木市で実施されているような、おむつ支給や「赤ちゃんの駅」などの、実効性のある子育て支援を提案しています。また、人口減少に歯止めをかけ、安定した財源を確保するために、JR新駅設置(長岡京駅～山崎駅間)の提案を当会はしています。

【近隣の高槻市でも、H29からJR新駅(島本駅～高槻駅間)設置の検討が行われています】

50年以上も昔から、議会での議論がある斎場・火葬場問題について！

乙訓2市1町の人口と(死亡者数)		
	平成11年度(1999年度)	令和6年度(2025年度)
長岡京市	78134人(488人)	81717人(861人)
向日市	53553人(343人)	55584人(662人)
大山崎町	15760人(83人)	16224人(166人)
合計	147447人(914人)	153525人(1689人)

左表は、平成11年(1999年)度と令和6年(2025年)度の2市1町(長岡京市、向日市、大山崎町)の推計人口と死亡者数を表しています。全体の人口はほとんど変わっていないのに、死亡者数が2倍に増えていることが分かります。また、上の人口状況の表やグラフからは、電子記録として残っている火葬場の議論が始まった50年前は2000人程度だった65歳以上の人口が、今やその10倍の2万人以上にもなっていることが読み取れます。

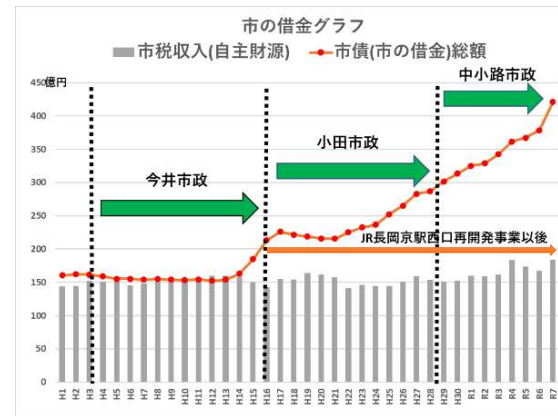
平成14年の議会議事録には、その時点から20年くらい前の1980年、昭和50年代中頃に、亀岡市と2市1町が一緒になって、老ノ坂トンネルに向かって右側の坂に火葬場を建設しようとした計画があったことや、柳谷観音楊谷寺や光明寺、向日市の「はり湖」においても、過去に火葬場・斎場の設置計画が存在したことが記されています。これらはいずれも地域住民による反対運動や署名運動などを受け、計画自体が具体化することはなかったなどの記載がありました。また、平成15年9月の広域行政対策特別委員会の報告書には、「市民にとって火葬場・斎場は必要な施設であり、過去にも議題として上がっている。しかし、最終的には立地場所が問題になり、その都度、議論は行き詰まり、今後においても調査・検討が必要である。」とまとめられています。

最近のニュースでも取り上げられているように、死亡者数の増加によって火葬場の混雑問題が深刻化しており、全国的に公営の火葬場不足が大きな課題となっています。超高齢化社会が進行するなか、この状況はどの市町村においても共通の課題となりつつあります。そのため、現在使わせてもらっている京都市や枚方市の火葬場についても、今後、より自市住民を優先することが予想されます(現在でも火葬料:京都市内大人2万円、市外大人10万円)。その結果、他市に依存した現状の体制では、将来的に十分な対応ができなくなるおそれがあります。令和6年12月議会一般質問において、「長岡京市から、向日市、大山崎町に働きかけて、今一度火葬場・斎場の調査・検討を行っていくべきではないか」という当会代表の質問に対して、市長は、「基本的に本市として検討する予定はないということでございますから、当然、本市から他市に働きかけるということはありません。」との答弁でした。50年以上にわたる議会での議論は、一体何だったのでしょうか。現在ならば、2外側道の整備などで、府道沿い以外の住宅地を通らずに行けるルートをつくることも可能です。(※HPの12月一般質問をご覧ください) 当会は、問題が複雑化する前に、2市1町で調査・検討を行い、施設設置に向けた取り組みを進めるべきだと判断しています。

阪急長岡天神駅西地区再開発事業の大きな問題点について

高架化が実現すると、駅周辺の活性化と人口増加、交通利便性の向上などのプラスの効果が期待できます。高槻市の例をみると、1970年前後に市民の要声を受け、1972年に阪急高槻市駅の高架化を大阪府に対して要望しました。1973年に阪急電鉄の調査が行われ、駅前周辺再開発事業と併せて事業計画が立ち上がり、1978年に事業開始、1981年に工事開始、1994年には事業が完了しました。その24年の間に、高槻市の人口は23万人から36万人に増加し、約1.5倍になりました。一方で、阪急長岡天神駅の高架化には、工法(別線方式、複線方式など)にもよりますが、線路がカーブしている関係などで、完成までおよそ30年かかることがわかっています。駅の乗降口が南側(大阪側)へ移動するのは、都市計画等の準備に10年、工事に入って10年程度必要なため、およそ20年後になります。阪急長岡天神駅西地区再開発を今の計画どおり進めた場合、完成までに15年程度かかります。仮にその完成直後から高架化工事を始められたとしても、乗降口の南側への移動は、さらに20年後となり、今から35年後ということになります。また、現実的な財政的視点で考えると、西地区再開発に約15年、その大型起債の償還に30年かかります。償還後から高架化事業に着手し、完了まで30年(うち乗降口移動まで最短20年)なので、駅の乗降口が南側へ移動するのは65年～75年後になる見込みとなります(この阪急長岡天神駅西地区再開発事業は、JR長岡京駅西口再開発時の大型起債の20年債終了を見越した計画でしたが、同じ金額規模の30年債を新庁舎建設に使っています。※近年の大型起債は30年債になっています)。このような長期スケジュールを考えると、店舗経営者にとって今の段階で移転することは、大きな損失につながります。

したがって、高架化を実現するならば、駅前再開発と同時に高架化事業を進める必要があります。



次に財政面の問題について、長岡京市は公共団体なので、民間企業のような「利益」や「減価償却」などという概念がなく、官庁会計の単年度決算で会計処理を行っています。そのため、単年度決算が黒字であっても、その黒字分の内訳は注意が必要です。例えば、年度をまたぐ道路工事の残りの費用や、予定よりワクチン接種率が低かったことで、国に返還しなければならない費用などが含まれています。毎年度赤字が続くようなことがあれば大問題ですが、大型公共事業を含まない年度の単年度決算上の黒字や少額の赤字は、民間企業の会計感覚と大きく異なり、それほど意味をもちません。そのため当会では財政状況を直観的に分かりやすくするため、市債総額(市の借金総額、左グラフ)を軸に議論を構成しています。実質的な財政負担額の増大や経常収支比率が悪くなってきている状況は深刻です。市は単年度決算が黒字だからとして、借金の前倒し返済などはしていませんので、結果として増え続けている借金のツケは、後世へ押し付けている形になっています。また、「長岡京市公共施設等総合管理計画」によると、公共施設の更新について、築35年で大規模改修、築70年で建て替えが想定されています。これに基づくと、今後40年間で公共施設の更新費用は約672億円にのぼります。費用を平準化すると年間平均で約17億円もの支出が見込まれています。これに加えて、今後40年間のインフラ施設(上下水道、道路、橋梁など)の更新経費に689億円かかります。インフラ施設の更新については、更新区間の変更や更新期間の延長などで一定の調整は可能ですが、それも生産年齢人口の維持による税収の確保が前提です。何もしなければ生産年齢人口が減少していくため、今ある公共施設の維持管理だけでも困難な状況にあります。以上のことから、今後の行政運営や高架化事業を行うための費用確保を考えると、当会が訴えてきた、新庁舎建設の建設規模(総費用)や維持管理費を抑えることが、いかに重要であったかがおわかりいただけるかと思います。

現在、西側再開発地区の地権者は61名、うち11月までの準備組合の組合員が45名で、70%前後となっています。これは、JR長岡京駅西口再開発の開始時とほぼ同じ水準です。このままでは財政状況に関わらず、強引に事業を進める可能性が懸念されます。開発事業によって生産年齢人口や税収が増え、投資額を回収できるものであれば進める意義がありますが、高架化事業と無関係な開発は、そうではありません。

市民から託された税金は、高架化と関係ない再開発のためではなく、全市民に恩恵のある高架化の実現に活用するべきです。

この阪急長岡天神駅西地区再開発は、市長選挙(2027年1月)が終わった翌年に降に「まちづくりの実施を判断する事業実施計画の作成や都市計画手続きの実施」が進められる予定です。そのため、新庁舎建設の時と同じく、知らないうちに事業が進んでしまうおそれがあります。計画が進んでしまってからでは遅きに失するのです。

これからの学校体育施設の一般開放の提案について



保育所や小中学校の建物を整備し維持管理することは、市町村にとって最も重要な事業の一つです。それらの建物は災害時の避難所、避難場所であり、子供たちの大切な教育現場であるからです。また、そのグラウンドや体育館などは、**学校の施設開放**としての利用もされています。しかしそれは、学校開放運営協議会に登録された特定の団体（市内に在住・在勤の人が10人以上で、成人を代表とする団体）のみが対象となっています。つまり、現在は、令和6年1月より行われている神足小の学校開放実験事業以外では、親子や友達同士で**グラウンドや体育館を、土日祝に、自由に使ったりすることができなくなっています。**2001年の池田小事件が起こる以前は、一般開放が行われていましたが、事件後は、**学校で子どもたちが自由に遊ぶことはできない状況**です。公園なども充実しているわけではないため、子どもたちが友達と一緒に外で遊べる場所が少なくなっています。

親子や友達同士、思いっきり遊ぶことは、子どもたちにとって大切な経験であり、一生の思い出になります。そのため当代表は、現在、筑紫野市などで始められているように、**子どもの遊び場や親子のふれあいの場として、学校の一般開放(小学校の体育施設の一般開放)を長岡京市でも始めるべきだと提案**しています。そうすれば、現在小中学校の体育館には空調施設が整備されているため、夏場でも熱中症の心配をすることなく、**小さな子どもたちが安心して遊べる身近な場所として利用**できます。この**学校の一般開放**（土曜日の午前中に加えて、団体利用のない土曜日の午後や日祝、春、夏、冬休みの利用可能日をSNS等で連絡し一般開放）の取り組みを神足小学校1校だけの実験で終わらせるのではなく、**長岡京市全体に広げていくべきだと考えます。**入学前の子どもたちを学校で遊ばせることができるようになれば、そこでの親同士の出会いがあったり、子どもにとっても、学校がよく知っている身近な場所となることから、「小1の壁」対策にもなります。なお、**現在あまり知られていませんが、春、夏、冬休み以外の土曜日の午前中は、小学校の体育館や運動場を自由に使うことができます。**

2024年12月議会一般質問で取り上げた**南向き校舎の暑さ対策**については、現在、長中（写真の3、4階窓際）で実験が行われています。

市内の文化財の問題と、長岡京市埋蔵文化財調査センターの今後について



長岡京市は、**古都「長岡京」**の跡地が市内に広がっている関係で、地域の大半が**埋蔵文化財包蔵地**であるため、土地開発の際には原則として発掘調査が行われています。この発掘調査によって出土した土器や石器などの遺物は、数万点に及び、年々増加しています。なお、その遺物の中で貴重だと判断されたものについては、写真や文章と共に保存されています。

現在は埋蔵文化財調査センター内の収蔵庫やスポーツセンターの倉庫、民間の借用倉庫で保管を行っていますが、この保管場所は未耐震の建物であり、増加し続ける**遺物を保管する場所の確保と保管体制の確立**が、今後の大きな問題となっています。現時点で、長岡京市内にある指定・登録されている文化財は163件あり、古文書や彫刻、石器や古墳、建造物など多岐に渡ります。そして、それらの管理者は、お寺や神社、長岡京市や個人となっています。これらの文化財は、市にとって重要なものであり、良好な状態に保つため、**日常的な維持管理や適時適切な修理**をしていく必要があります。また**防火・耐震・防犯等の対策**を計画的かつ継続的に実施するため、支援の充実を図る必要があります。

この文化財の管理で深刻な問題となっているのが、**民間の個人が管理者**となっている国登録建造物です。現在でも居住されているところもあり、防火訓練などが実施できておらず、文化財に対する指導や助言しか行えていません。耐震や防災（土砂崩れや大雨、防風や落雷など）などの対策も不十分で、耐震工事などを行う場合は、**数億円単位の改修や修繕が必要**となります（例として、市が保有することとなった石田家住宅や中野家住宅の耐震化と修繕費）。お金がないからと火葬場問題や、このような市の文化財の問題を先送りにして、**2ヶタも規模の違う阪急長岡天神駅西地区再開発を、高架化事業と関わりなく単独で進めようとしているのはどうなのでしょうか。**

上に掲載している写真は、国登録建造物の**田村家住宅**です。ここは、個人で管理するには限界となり、現在は不動産屋の看板がかり、雑草が生い茂った、きちんとした管理がなされていない状況になっています。この田村家住宅は、昔、診療所として使用されていた貴重な文化財であり、うまく維持管理や保存を行えば、ドラマの撮影場所などに使われてもいいような建造物です。これからの市の文化財対策について、こういった文化財の問題を、まずは多くの市民の方に知っていただく事が重要だと判断しています。

また、以前から当会は、**埋蔵文化財調査センターの2市1町の合併**を訴えてきました。これまで43年間、埋蔵文化財調査センターを運営してきて、そこへの43年間の来館者総数は7万3000人程度と、市の人口よりも少ない状況です。これは埋蔵文化財調査センターが、駅からの交通が不便な場所にあり、外に向かったの発信もうまくできていないからです。そこで、**京都府へ協力を仰ぎ、京都府のセンターに事業統合をしたり、2市1町で広域化したりして、それぞれが持つ古都・長岡京の文化財や資料、情報をまとめ、より充実させること、**さらに例えば、**京都府が令和10年10月に開業予定のアリーナ(屋内スポーツ施設)の1部を借りて、国内外へ広く発信していくことを当会は提案**しています。

長岡京市公共施設等総合管理計画と現状とのソゴについて！！



この写真は、4中のグラウンド西側に設置されている倉庫の写真です。ここは、ほぼ**毎日生徒たちが部活などで利用**しています。拡大した写真の通り、**全ての柱はサビによる腐食で、土台から無くなっており、梁や屋根を柱ではなく、壁だけで支えている**という状態になっています。このままでは、2018年6月の大阪府北部地震によって小学校のブロック塀が倒壊したのと同じような**事故が、いつ発生してもおかしくない状況**でした。そこで2025年12月議会一般質問で、この早期修繕と公共施設の管理体制について取り上げました。また2026年3月議会一般質問でも、その倉庫の修繕中に（※2026年2月3日に修繕完了）利用制限や立ち入り禁止措置を取っておらず、普段通りに利用させていたことについて、安全対策と危機管理の側面から取り上げました。この問題を指摘したところ、中小路市長は「（その判断を行った）技師に対する冒涇だ」と反論しました。しかし、上の写真を見れば、一目瞭然かと思えます。長い間続けると、誰の代表なのか忘れてしまうものなのではないでしょうか。なお、この件について、建築士1級を持つ民間の専門家3名のうち2名から「この状態では柱の強度がゼロで、外壁ブロックに鉄筋が入っていても、ブロックだけで梁と屋根を支えている状況。上屋の重量が軽いので今はもつが、大きな横揺れがあれば倒れる。危険であることは間違いない。」と意見をもらい、そして3名揃って「**地震などの揺れがあると危ない。**」との意見をもらっていました。市の公共施設に関する上位計画の「長岡京市公共施設等総合管理計画」では、**日常点検や長寿命化のための総合的な点検の実施が謳われています。**それにも関わらず、このような状態になるには半年や1年という短期間ではなく、最低でも4年から5年以上かかることから、**単なる見落としなどではなく、日常点検や定期点検が行われておらず、劣化状況を把握していなかったことがうかがえます。** **問題はそこにもあります。**

アゼリア通り歩道の滑りやすかったタイルの改善がようやく行われました！！



2021年の選挙時に、市民の方から要望を受けていた、**アゼリア通りの滑りやすかったタイル**ですが、**滑り止めコーティング**をするという改善を、4年越しにようやく実現できました。このタイルは、雨の日や雪の日にタイルが濡れると、とても滑りやすくなるという問題があり、4年前の選挙時に、**市民の方から指摘**を受けていたものでした。選挙後すぐ、2021年12月議会一般質問で取り上げ、その後、2022年6月議会一般質問や常任委員会などでも、このタイルについて**何度も問題提起**を続け、**早期改善**を重ねてきました。しかし、このタイルの設置場所は府道であり、設置時期も非常に古かったため、記録などが残っておらず、そのためタイルの管理責任者（所有者）などが不明で、改修工事を行うことができない状況が続いていました。今後は、このタイルの**所有および維持管理を京都府**が行うこととなり、破損した場合は、代替品が存在しないため、**順次、歩道用のタイルに変えていく**とのことです。**国や府や他市町などが絡む問題は、どうしても対応に時間がかかってしまいます。**

変える姿勢・変わる市政の会の公式 LINE アカウントを開設しています！！



「変える姿勢・変わる市政の会」の公式 LINE アカウントを開設しています。左の QR コードまたは <https://lin.ee/j00q50QF> から登録できます。この公式 LINE では、HP の**更新情報**などを配信しています。特に **5小校区以外の地区にお住まいの方は、ピラの配布地域の関係で配れない場合などがありますので、ご登録いただければ幸いです。**

編集者後記...JR 新駅について、昨年の選挙時に一部地域で演説したとおり、正攻法では時間がかかってしまうので、細い糸を辿って昨年の3月にキーマンとなるであろうトップと接点を持ち、自分にしかできない方法で話を伝えてもらったのですが、サブリの件で全てが流れてしまいました。今は、元国会議員を通じて、新たなアクションを起こしています。昨年の市議選で、高架化と関係の無い阪急長岡天神駅西側再開発の問題を、広く知ってもらおうと取り上げました。今回も前回選挙の新庁舎建て替えの時と同じく、この問題を取り上げる候補はいませんでした。JR 西口再開発を超える過去最大の事業費 300 億円超えになります。